

# 書林

第 89 号

2016 年 4 月 4 日 発行

巻頭言 (図書館長) .....	1
新入生に贈るこの 1 冊 .....	2～ 4
自著紹介 .....	5～ 7
Welcome to SGU Library (先輩紹介) .....	8～10
2015(平成 27)年度「利用統計」 .....	11
編集後記 .....	12

## ～ 学園創立 70 周年を迎えるにあたって ～ 新たな学習空間としての図書館



図書館長 皆川 雅章

図書館の基本的な役割は、利用者の知的活動を支援するために、所蔵資料およびその閲覧環境を提供することであると考えます。インターネットやマルチメディアが誰でも利用できるようになる前は、対象資料は図書、新聞、雑誌などの印刷物に限られ、図書館は、それらを収蔵・管理することを通じて、知の集積場としての役割を担っていました。四半世紀以上前に遡りますが、私の学生時代の図書館利用は専ら、高価で入

手が困難であった海外の図書や雑誌の閲覧、そして毎週のレポート書きでした。その当時、蔵書を調べるには、パソコンではなく、紙カードになった大量の目録の中から見つけるしかありませんでした。現在の本学図書館で資料を捜す場合、OPAC (資料検索システム) を使えば、所蔵の有無や所在を瞬時に確認することができます。紙の目録を調べていた頃からは想像もできない数の書籍や資料を調べることができます。また、インターネット環境があれば図書館外からアクセスして調べることができます。かつては、図書館に直接出向かなければできなかったことです。

本学図書館には、借りた資料を図書館内で利用する、あるいは自学自習するためのスペースとして書架と併設された第 1 閲覧室、利用者一人一人に静寂な学習環境を提供する第 2～第 4 閲覧室、そして共同作業をするためのグループ学習室があります。借りた本の用途や学習形態に応じて、これらの閲覧室を使い分けることができます。このような、学習空間を確保するとともに、今後重要となることが予想されるのが、アクティブラーニングの導入など、講義方法の変化に対応した学習環境の整備です。現在、本学においてラーニング・コモンズ<sup>注)</sup>の整備が進み、後期から活用できるようになります。現行のグループ学習室周辺のエリアが改築され、そこにコラボレーションセンターのように可動性のある机・椅子やパソコンが配置され、新たな学習方法の導入に適した空間となり、図書館機能を利用した学習をより効果的に行えるようになります。図書館では、これまでのサービスに加えて、新たな学習空間の創造に向けた創意工夫を行っていきます。新たな資料提供や利用ガイダンス、館員によるアドバイスの方法などを探りながら、学生・教職員のみなさんとの協働で新たな学習環境を創造していきたいと思えます。

注) ラーニング・コモンズ

『複数の学生が集まって、電子情報も印刷物も含めた様々な情報資源から得られる情報を用いて議論を進めて行く学習スタイルを可能にする「場」を提供するもの。その際、コンピュータ設備や印刷物を提供するだけでなく、それらを使った学生の自学自習を支援する図書館職員によるサービスも提供する。』(文部科学省用語解説)

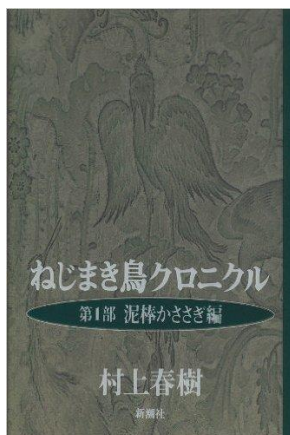
## ● 新入生に贈るこの1冊 ●

### 『ねじまき鳥クロニクル』

第1部 泥棒かささぎ編 第2部 予言する鳥編 第3部 鳥刺し男編

村上 春樹 [著]

新潮社 1994-1995年



### 平山 愛記〔法学部 法律学科4年〕

新入生のみなさん、入学おめでとうございます。これから4年間、様々な大学生活を送られると思いますが、その中で、僕は少しでも読書に触れる機会が生まれればと思い、この文章を書かせてもらっています。

僕が選んだ図書は村上春樹作の『ねじまき鳥クロニクル』の三部作です。村上春樹氏といえば、日本を代表する作家として、世界でも活躍されています。彼の書く作品は、とても読みやすく、内容がずっと頭に入っていきます。『ねじまき鳥クロニクル』は長編作品ですが、あまり苦勞せず読み進むことができます。

内容は、自分で読んでほしいので、詳しくは書きませんが、簡単に説明します。主人公は最近失業したばかりで、妻が仕事に出て、主人公は家事全般をこなしている。妻の兄と主人公には確執があり、話は主人公と妻と義兄さんとの関係を描いている。その中で、様々な人々が主人公の前に現れ、様々な謎が生まれ、それらを主人公が解決していく。ざっと話の流れは、そのようになっています。

僕が言いたいのは、この文章を読んで大学図書館を有効に使ってほしいということです。レポートを書くためでも良いし、自分の興味関心のためでも良いです。他にも、充実した学生生活を送ってください。

【 図書館所蔵 1層書架：和書 913.6/MUR/1-3 】

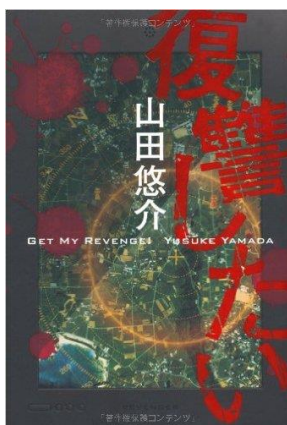
【 図書館所蔵 2層書架：文庫 913.6/MUR/1-3 】

### 『復讐したい』

山田 悠介 [著]

幻冬舎 2011年

### 結城 準一〔人文学部 臨床心理学科3年〕



「復讐したい」、この強烈なタイトルが目にとまったのが、この本を読むきっかけでした。

冒頭で「被害者遺族は『裁判』を行うのでしょうか、それとも『復讐』を選択するのでしょうか！」という台詞が出てくる。舞台は2019年、復讐法が可決し、殺人を犯した犯罪者を裁判で裁くか、自分の手で裁く＝復讐をするのかを、被害者遺族が選択できる世界なのだ。

主人公の男は愛する妻を殺され、その犯人に復讐することを決意する。そして、復讐法が施行される無人島で、同じく犯人に復讐するために来た人達と出会い、物語が展開していきます。復讐に駆り立てられた主人公に訪れる結末とは！！

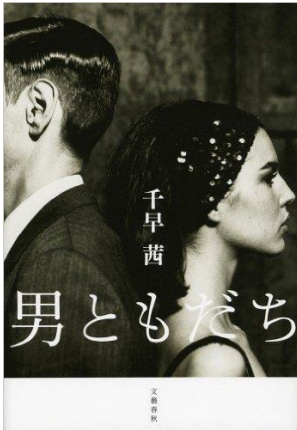
本を読むことで、今までなかった考え方や発想を知り、自分の世界を広げる事ができると、僕は思います。大学生活をより豊かにするためにも、新入生のみなさん！沢山本を読んでみませんか？

【 図書館所蔵 1層書架：和書 913.6/YAM 】

## ● 新入生に贈るこの1冊 ●

### 『男ともだち』

千早 茜 [著]  
文藝春秋 2014年



原田 桃子

〔 経営学部会計ファイナンス学科2年 〕

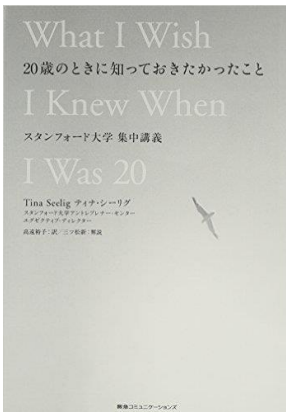
新入生のみなさん、入学おめでとうございます！大学生活はサークルや勉強、ゼミ、バイトなどやる事がたくさんありますが、少し時間を作って読書してみませんか？

私がみなさんにお勧めしたい本は千早茜さんの「男ともだち」です。京都でイラストレーターをしている神名という女性と、神名の大学時代の先輩ハセオ。それぞれ恋人はいるのになぜか2人は一緒にいてしまう。恋人以上に大切だけお互い「ともだち」のまま。そんな2人を描いたほろ苦くて、大人っぽい素敵なお作品です。

女心が繊細に書かれていて、女性必見の本だと思います！堅苦しくない本なので、本があまり好きじゃない人でも楽しめる本だと思います。ぜひ一度手にとって読んでみてください。

【 図書館所蔵 1層書架：和書 913.6/CHI 〕

### 『20歳のときに知っておきたかったこと <スタンフォード大学集中講義>』



ティナ・シーリグ [著]

高遠 裕子 [訳] 三ツ松 新 [解説]

阪急コミュニケーションズ 2010年

吉川 哲生〔 経営学部准教授 〕

もし、私がこの本を大学に入学した時に読んでいたなら、私は今、大学教員はしていなかったかもしれない。本というのは、その人の人生を変える力がある。そんな大袈裟なことを言っても信じられないかもしれないし、読んでいる時にはそれはわからないことがほとんどで、後になってから、そういえば・・・と気づくことが殆どである。それは勉強やゼミでの研究、先生からの一言や親に怒られたことなども、また同じで

あろう。この本の書き出しは、「いま、手元に五ドルあります。二時間でできるだけ増やせと言われたら、みなさんはどうしますか？」。これを読んで考えることこそ、大学での勉強につながるのです。正解はひとつではなく、ひとつそれぞれなのです。結果がどうであれ、あなたが一番だと信じられることこそが正解なのです。ただ、それにはしっかりと勉強し、たくさん考えなければなりません。それが自分の人生をより良いものに変えることにつながるのです。

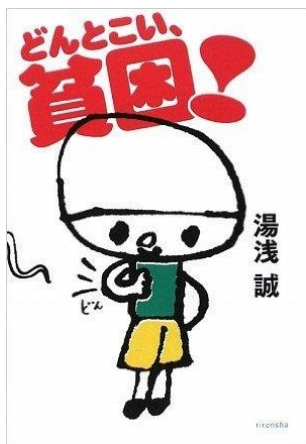
【 図書館所蔵 1層書架：和書 159/SEE/[1] 〕

## ● 新入生に贈るこの1冊 ●

### 『どんとこい、貧困！』

湯浅 誠 [著]

イースト・プレス 2011年



横山登志子 [人文学部教授]

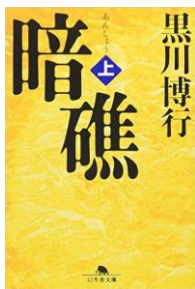
この本は、「学校でも家でも学べない いまを生きていくための知恵、満載」という魅力的なタイトルで展開されているイースト・プレスの「よりみちパン・セ」シリーズのひとつです。著者はNPO法人を活動拠点にしたホームレス支援や、反貧困運動をリードする社会活動家として有名な湯浅誠氏ですが、通常の貧困をとりあげた本とは違って、なかみも大変わかりやすく、貧困問題を身近に考えるよいきっかけになる本だと思います。貧困はみなさんにとって「遠い問題」ですか？「近い問題」ですか？この本を読むと、私たちの暮らす社会は、貧困が身近に確実に存在していること、そして「見えないことにしてきた（ないことにしてきた）」けれど、そうはいかないという現状がよく理解できます。著者は『どんとこい』というの、歓迎しますよという意味じゃなくて、私たちは逃げないという意志を表している」と述べています。最近、子どもの貧困、女性の貧困の問題も取り上げられるようになってきました。まずは本書を手にとりながら、自分の見える範囲で社会がどうなっているのか考えてみてください。個人的にはこの本の表紙の絵や、各所に出てくるイラストがとても気に入っています。そちらも楽しんでください。それから、「よりみちパン・セ」には他にも面白い本がたくさんありますよ。

【 図書館所蔵 [「理論社」発行(2009)のもの] 1層書架：和書 368.2/YUA 】

### 『暗礁』(上巻・下巻) [ 幻冬舎文庫 ]

黒川 博行 [著]

幻冬舎 2007年



清水 修 [ 大学生協職員 ]

黒川博行さんの『疫病神』を読み終えた時、続編を読みたいと思い、大学の図書館にも所蔵されていましたが、思わず生協で購入してしまいました。

物語は、ヘタレ建築コンサルタントの「二宮啓之」と粗暴でおしゃれなヤクザ「桑原保彦」のコンビが関わり、運送業者・警察・ヤクザの三つ巴の癒着が織り成す、白熱のバイオレンスとサスペンス。獲物は、数十億円に及ぶ大手運送会社の闇のマル暴対策費。そのシノギは追いつ追われつの壮絶な裏金争奪戦に発展、2人は抜き差しならないトラブルに巻き込まれて行く・・・。



ヤクザの桑原を疫病神と思いながらも、いっしょに行動するところや、2人のリアルでコミカルな台詞回しがたまらない。また、白黒がつかない、解決したのかしていないのか、はっきりとわからないところもおもしろい。難しく考えず、内容の流れに沿って読んでいくことがポイントです。

この『暗礁』はシリーズ第3作目ですが、前作の『疫病神』『国境』は勿論、黒川博行さんの本は、どれも超弩級のエンターテインメント作品ですので、一度、手に取って読んでみてはいかがでしょうか。

【 図書館所蔵 2層書架：文庫 913.6/KUR/1 (上巻) ・ 2 (下巻) 】

## 『特別支援教育時代の光り輝く映画たち』

二 通 諭 [著]

[ 全国障害者問題研究会出版部 2015 年 ]



特別支援教育とは、障害のある子どもたちへの教育や発達障害など特別な支援を要する子どもたちへの教育の総称です。本書は、筆者の経験を土台として、映画を特別支援教育の仕事や学習に役立たせようという試みです。映画ゆえ、愛着障害や学校病理としてのスクールカーストという問題にも容易に視線を向けることができます。シリアスなテーマにもワクワクしながら接近できるのが映画の利点。これを使わない手はありません。

さて、筆者に見えてきたものは、両極に離れていた人たちが、結局、中心に向かって歩き出しているという風景です。アナ雪のエルサから始まって、「サウンド・オブ・ミュージック」のマリア、任侠映画の高倉健、「男はつらいよ」の寅さん、三島由紀夫、寺山修司、ビートルズのジョン・レノンと実母のジュリア、森繁久弥演じる森の石松、山田洋次に大島渚、若尾文子に小沢昭一、今村昌平に小津安二郎…。特別支援教育精神という視座から眺めるなら、なかなかどうして、みんないい、のです。本書は、本文で 77 作品、巻末のチェック表で 263 作品取り上げています。

以下は、本書と世間がシンクロしたエピソード二題。

本書執筆後のことですが、「おおかみ子どもの雨と雪」、「バケモノの子」の細田守監督を被写体とするドキュメンタリー番組で、細田は、吃音障害があり特殊学級に在籍していたと語っています (NHK プロフェッショナル 仕事の流儀 2015・8・3 放送)。そこにあるのは、障害がもたらす創造の力、障害の内に潜むポジティブな力であり、筆者が本書に込めた意図と共振します。ちなみに、「おおかみ子どもの雨と雪」について、「あえて差別される側に回るといふ思想の高み」として 1 節設けています。

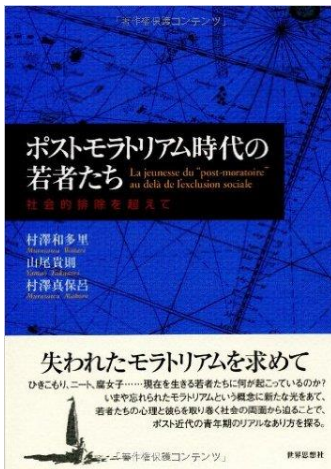
この番組から 10 日後、小林信彦が週刊誌のコラムで、若尾文子について、次のように述べています。…代表作は「妻は告白する」といわれていたが、近年では「清作の妻」が若尾文子のトップ作品ではないかと思われるようになった。少なくとも、「赤い天使」を加えて、この三本を見ていないと、若尾文子の凄みは語れないであろう… (週刊文春「本音を申せば」連載第 856 回 2015・8・13)。「赤い天使」についても、「セックスボランティアとしての従軍看護婦の実践」として 1 節設けています。「清作の妻」については、巻末のチェックリスト「視覚障害」の項に入れました。

いつの日か本学で上映できればと願っているのが「タリウム少女の毒殺日記」。映画文法の独自性ゆえ、理解に手間取りますが、近年の難題である「実験・観察型殺人」への一つの回答たりえているという観点から 1 節設けました。本作鑑賞にあたって、解説や評論の力を借りることをお勧めします。読んでから見る、見てから読む、です。

【 図書館所蔵 本学教員著作コーナー (ラウンジ) : 和書 378/NIT  
1 層書架 : 和書 378/NIT 】

『ポストモラトリアム時代の若者たち — 社会的排除を超えて — 』

村澤和多里、山尾 貴則、村澤真保呂 [著]  
 [ 世界思想社 2012年 ]



失われたモラトリアムを求めて

ひきこもり、ニート、腐女子……。現在を生きる若者たちに何が起きているのか？

いまや忘れられたモラトリアムという概念に新たな光をあて、若者たちの心理と彼らを取り巻く社会の両面から迫ることで、ポスト近代の青年期のリアルなあり方を探る。

(本書オビより)

『進撃の巨人』と『Psycho-Pass サイコパス』

2000 年前後からヒットする青年マンガにはある特徴が見られるようになっていく。それは『新世紀エヴァンゲリオン』あたりから始まったことかもしれないが、「得体のしれない敵」が「理由もなく襲ってくる」というものである。これは日本だけに限ったことではなく、いわゆる「ゾンビムービー」は世界的な流行になっている。『進撃の巨人』の世界的な大ヒットもこのような流れでとらえることができるであろう。

この作品の中で、少年たちは「待たなし」の状況におかれ、否応なく戦いに巻き込まれていく。ヒロインが戦いに目覚めるシーンで「そうだ…この世界は…残酷なんだ」という語りが入るが、この言葉は現代を生きる若者たちの声を象徴しているとも言えるだろう。現代の若者たちも、弱肉強食の世界を前にして、壁の中に「ひきこもる」か、恐怖と戦うかの二者択一が迫られているのである。

また、社会現象にまではならなかったが『Psycho-Pass』というアニメーションの世界も現代を映す鏡としては秀逸である。そこで設定された近未来では、すべての人びとが潜在的に犯罪を起こす確率を「犯罪係数」という形で監視され、それが一定の数値より高くなると当局によって身柄が拘束され「治療 (カウンセリング)」される対象となる。これはSFの話ではあるが、このような未来像はある意味で現実のものとして化している。

アニメの世界では、心理的な乱れが「犯罪係数」として排除 (エリミネート) の指標となっていたが、われわれの現実ではコミュニケーション能力がこの指標となっているであろう。人づきあいが苦手であることが「コミュ障」と呼ばれ、排除や治療の対象となってきている。この現代はすでに「近未来」に足を踏み込んでいるのである。

失われたモラトリアムを求めて

筆者たちが『ポストモラトリアム時代の若者たち』で描き出そうとした世界は真にこのような世界であった。かつて青年期は大人になるまでの「モラトリアム (= 猶予期間)」と呼ばれていたが、現在の若者たちにそのような猶予は許されていない。この世界でどのように生き延びていくのか…。それがこの本のテーマである。

【 図書館所蔵 本学教員著作コーナー (ラウンジ) : 和書 371.47/MUR  
 1 層書架 : 和書 371.47/MUR 】

## 『認知類型論』

中村 渉、佐々木 冠、野瀬 昌彦 [著]  
〔くろしお出版 2015年〕



本書は、日本語の品詞、格、態などについて機能主義的な類型論の観点からの分析を示したものである。類型論は世界中の多様な言語を比べる中で含意法則や普遍的な規則・制約を探る言語学の一分野である。

筆者は第4節で態の一種である逆使役の分析を担当した。分析の対象とした言語体系は北海道方言である。逆使役は、他動詞文の主語を削除して自動詞文を作る態である。北海道方言では動詞語幹に-rasar という接尾辞がついた述語の一つの用法として逆使役が存在する。「壁を白く塗った」に対する「壁が白く塗らさっている (nur-asat-te i-ru)」が逆使役の例である。この自著紹介では、北海道方言の逆使役を類型論的観点から分析する意義について論じることとする。

方言は母語話者にとって意識しないものであり、母語話者以外の人から学習の対象とされることがない。母語は通常ある個人が最初に覚えたことばで、特に文法を意識することなく使うことができる。母語が標準語としての地位を持つことばである場合、母語は国家などの行政単位全体で通用する言語すなわち公用語や国語と言われるものとして機能する。一方、母語が特定の地域でしか通用しないことばである場合、それは方言と呼ばれる。外国人が学習する言語は通常、公用語や国語として機能することばである。外国人が日本語を学ぶ際に使う教科書で取り上げられるのは、東京方言をベースとすることば、いわゆる標準語である。

日本語には様々なヴァリエーションがあるが、その中で学習の対象とされるのは、標準語である。通用する範囲が広いことばが学習される傾向があるのは外国語学習の場合でも同様である。通用する地域が比較的狭い方言や言語を学んだり調べたりしていると「なぜそのようなことをするのか」と疑問に思われることがある。筆者がルーマニアの屋台でワインの熱燗を頼むとき、英語で注文すると商取引に必要な会話しか生じない。一方、ルーマニア語で注文すると「どうしてルーマニア語が話せる？ どこで習った？」と商取引とは関係のない会話が始まる。

通用する地域が狭い外国語を学ぶ理由としては、その外国語で書かれた文学が読めることや国際結婚で家族になった人たちと会話をするためといったことが挙げられる。一方、日本語の本土方言の場合、語彙がかなり標準語の影響を受けているため、多少の不便を我慢すれば、方言が使われる文学を読んだり、別な地域出身の新しい家族とのコミュニケーションのために「学習」を行う必要は感じられないだろう。

学ばれる言語は研究の対象となる言語でもある。言語学の論文で分析の対象となるのも多くの場合、各国で公用語や国語としての地位を持っている言語である。

方言は学習対象となることがほとんどない。それを調べる人がいるのは何故だろうか。その地域の文化に対する理解を深めたいからである。方言の体系を理解することは、その地域の文化を理解する上で有益と考えられる。

方言の体系には、標準語にはないメカニズムが含まれていることがある。それを理解するには同様のメカニズムが見られる他の言語の研究を参照する必要がある。ここに方言を類型論的観点から分析する理由がある。

この本の中で取り上げた逆使役という現象は、標準語では非常に限られた範囲でしか存在しない。一方、ロマンス諸語などのヨーロッパの言語では逆使役が生産的な形態法（言語によっては統語構造）として存在する。ヨーロッパの諸言語をはじめとする様々な言語の分析から逆使役に関する「普遍的な」性格付けが提案されている。このような先行研究は北海道方言の逆使役を分析する上でも大いにヒントになる。同時に、これまでに提案された「普遍的」分析を北海道方言の逆使役のデータで検証することは、類型論に対する貢献になり得る。

本書の第4章では北海道方言の逆使役のデータをもとに「逆使役の背景にある意味的操作は再帰（意味的な主語と目的語の同一指示）である」とする「普遍的」な逆使役の性格付けを検証した。本書で示した結論は、先行研究における「普遍的」な性格付けは手段と本質を見誤ったものであるというものである。

近年、方言の体系を紹介する出版物が多数刊行されるようになった。5年前に北海道大学出版会から刊行された『日本の危機言語』（呉人恵編）もその一つである。このような出版物によって標準語とは異なる文法体系を持った方言が存在することが認識されつつある。方言の体系の紹介は、それ自体で地域研究に貢献するものであり、重要だ。方言の体系が持つ言語学上の意義を類型論的観点から示すことは、当該方言だけでなく言語一般についての理解を促進する上で貢献が期待できることである。本書がそのような点で貢献するところがあれば幸いである。

〔図書館所蔵 本学教員著作コーナー（ラウンジ）：和書 810.1/NAK〕

かわむら あき  
**川村 亜季** さん（人文学部人間科学科2年）

## 「新入生の皆さん、図書館を上手に活用してくださいね！」



入学時より、図書館を積極的に利用し、定期的にお気に入りの図書を借りられて行く川村さん。爽やかな笑顔で元気に挨拶してくれるその姿から、充実した大学生活を送られている様子が窺えます。

そんな川村さんに、本学の文学部を希望した理由や、将来の目標、加えて、入学されてから1年が経過した今、入学前に思い描いていた大学生活を送られているかどうか、これまでの経験上からの新入生へのアドバイス、特に図書館を上手に活用する方法などを、お伺いしました。

### — ご出身とご卒業された高校を教えてください

もし高校時代にクラブなどで活動をされていたら教えてください。

生まれも育ちも札幌市です。高校は市立札幌大通高校という定時制の学校に通っていました。そこでは4年で卒業するカリキュラムを組んでいたのので、普通の人よりも1年間多く高校生活を送っていました。

高校時代も現在も週5でバイトをしていて、部活をしている時間はありませんでした。（本当は高校入学時から2年の終わりまで卓球をしていたのですが、3年生からバイトを初めて部活に行く時間が取れなくなり辞めました。その時の自分は部活よりバイトを優先したかったのです。その決断にいまでも後悔はないので、わたしの高校生活はバイトをしていたという経歴のほうが胸を張って話せますね。）

### — 本学の文学部人間科学科を選んだ理由と、将来に向けての目標をお聞かせください。

私が人間科学科を選択した大きな理由は、多領域の授業を選択できるからです。現在、福祉領域と文化領域の授業を多く履修しています。福祉領域は将来なりたい自分のため、文化領域は今の自分が学んでみたいことです。「将来どんな職業に就こう、自分はどんな大人になりたいのだろう・・・」、そう考えた時、何か人と関わる職業に就きたいと思いました。その中でどうして福祉領域を選んだのかと聞かれると、自分でもうまく言葉が出てきません。まだ模索中なのです。それともう一つ、いま何をしたいかを考えた時に浮かんできたのが、考古学や宗教学の知識が欲しいと思っている自分にも気が付きました。福祉を学べる所も、文化を学べる所もたくさんあります。でも両立して学べる学科を探した時、札幌学院大学の人間科学科にしようと思えました。

そして卒業する時、4年間頑張った良かったと思えるような大学生活を送ることが1番の目標です。思い出した時に、「あの時ああすれば良かったのに」という後悔はしないで、自分にありがとうと言える毎日を送りたいですね。でも、もうちょっと明確な目標を定めるべきでしょうか（笑）。



— 入学されて1年が経過しました。すっかり大学生活にも慣れたと思います。

入学前に思い描いていた大学生活を送れていますか。

入学前に思い描いていたよりも楽しいです。すっかり慣れてきてちょっと手を抜き始めたことに自分でも気が付いているので、2年生からは「気を引き締めて頑張らないといけないな」と思っています。

— 大学（人文学部）での授業はいかがですか。勉強されていて、難しいと感じているところはありますか。

何もかもが難しいです。先生によって授業の仕方がほんとに異なるので、それについて行くだけで最初は大変でした。パワーポイントなどプロジェクターを使って授業してくれる先生や、資料をポータルに上げてくれる先生の授業には、慣れることができました。板書をしない先生の授業は、90分間必死に聞き取ってノートに記していますが、読み返してみると自分が何を書きたかったのかわからず、1年次のテストで苦い思いをしました（笑）。

— ボランティア活動など、卒業を目的とした勉強以外、大学時代において他にやってみたいと思っていることはありますか。

オープンキャンパスのスタッフをやりたいです。昨年募集していたのには踏み切れず、チャンスを逃してしまいましたが、今年度の募集では是非に、と思っています。後は・・・、何でしょう。挙げたらキリがないです。突拍子もないことだったら、海外に一人旅してみたいですし、留学もしてみたいですし、何か音楽を趣味にしてみたいです。何かと言っても、やってみたいのはハーブで決まっていますのですけど・・・。

後は・・・、他のバイトもしてみたいです。今、一番気になっているのは、生協のクレープ屋さんですかね。時間を有効に使ってたくさんのことをしてみたいので、逆に、私に「こんなこと楽しいよ！」って教えて頂きたいですね。

— 本学図書館に関連する質問をさせていただきます。

— 毎日、図書館でお顔を見ている感じがするのですが、1週間の利用日数と1日の利用時間の状況を教えてください。



そうですね、何かしら毎日図書館に来ているような気がします。借りていた本を返すためだけに来る日もありますが、次は何を借りようかなと1時間以上本棚を物色している日もありますが、レポート作成のために半日図書館にこもっている日もあります。大きな声では言えないのですが、眠くてうとうと寝てしまう日もあったりします。図書館にはとってもお世話になっています。

— 主な図書館の利用目的は何ですか。どんなことに役立っていると感じていますか。

やはり何とんでも、一番の目的は本を借りに来ることですね。

公共の図書館では予約50人待ちとか、いま予約しても自分の手元に来るのは1年以上あと・・・、なんてことは人気の作品だとよくあるようです。「早く読みたいのに、いま読みたいのに・・・」って状態ですね。でも、大学の図書館は比較的すぐに借りられるので本当に嬉しいです。たとえば、レポート課題が発表されて、すぐその足で必要な本を探しに行き借りることができるのには、本当に助かっています。

— 川村さんにとって、図書館のお気に入りの場所 Best 3 を教えてください。



いつも当たり前で使用しているので、時に意識したことはないのですが、あえて挙げるとすれば・・・。

やはり1番目は第1閲覧室ですね。参考資料の書架も近いですし、皆が勉強している雰囲気が好きです。

2番目は、何かとパソコンを使用するので、第4閲覧室でしょうか。

そして・・・。実は、まだ一度も使用していないのですが、DVDやCDを視聴してみたいです。本学の図書館には、話題の映画や最新のアーティストのCDが数多くあります。これを利用しない手はありませんよね。・・・という意味で、3番目には視聴覚室を挙げたいと思います。

— 積極的に図書館を利用されている川村さんにとって、他の学生さん、特に新入生への図書館活用法のアドバイスがあれば、お願い致します。

大学では、自分で時間の使い方を調整でき、講義の入っていない時間帯を、いかに自発的に有意義に過ごすかが大事であることを、1年間過ごしてみてよく分かりました。そこで私は、図書館を利用することが多くなりました。私の周りの友人も、レポート作成やゼミの集まりなどで、けっこう図書館を利用している人が多いように思います。毎日誰かしら図書館で会って挨拶していますね。ただ、図書館で本を借りているところを見かけたことがないのでオススメ本があったら紹介したいと思い、入学後に読んだ本で『思い出あずかります』（海辺に住む不思議な女性と女子高生の切なくも幸せな出会いの物語）という本がとっても気に入ったので友達に勧めたことがありました。

つまり、図書館の利用は、何も勉強に限った事ではありません。趣味やクラブ活動、日頃の学生生活をサポートしてくれる情報が図書館にはいっぱいあります。

図書館を上手に活用し、いっしょに充実した大学生活を送りましょう。

— 最後に、本学図書館を利用している上で、感想や要望を含め、その印象をお聞かせください。

入学前、オープンキャンパスで図書館に初めて入った時から惹かれていました。大学4年間思う存分利用しようと思いながら、まだ利用していないサービスが多いと感じています。あんなに図書館に通っておきながら、DVD(Blu-ray)・CDなどのAV資料を借りたことは一度もないのです。今年度は、空き時間を見つけて積極的に利用したいと思っています。

また、一度うっかりして借りていた本の返却期限を過ぎてしまったことがあります。後ろめたくてこっそり返却ポストに返そうかなとも考えたのですが、正直にカウンターに返して謝ったら「その正直な心が素敵です」と言ってくれて嬉しかったのが図書館を利用した中で印象に残っている出来事です。

あと、背表紙の裏にある返却日を知らせる欄を、つつい見えてしまいます。返却日の印を見て「この本は人気なんだな」とか「この本がこの前借りられたのは3年前なんだな」とか、一度も返却日の印が押していない本は、自分が一番乗りかなって想像が膨らみます。『赤毛のアン』シリーズが、本学の図書館に揃っていたのですが、以前に見た時、1巻は多く借りられていたのですが、巻数が進むにつれて減っていき、最終巻までたどり着いている人がいなかったように記憶しています。だから、自分がその最初の一人になろうかなとこっそり考えていたりしていますね（微笑）。

— 突然のインタビューにもかかわらず、快くご対応いただき、ありがとうございました。

図書館を大いにご利用いただき、これからも目標に向かって頑張ってください。

## 2015(平成 27)年度 図書館利用統計・蔵書統計

表 1. 開館日数 (日)

通常開館	休日開館	短縮開館	開館合計	休館	総計
193	42	99	334	32	366

表 2. 入館者数 (人)

9:00~17:00	17:00~21:30	合計	1日当たり
158,055	36,973	198,028	592.9 [198,028÷334 (開館日数)]

表 3. 貸出者数 (人)

学生・院生	教職員	その他	合計
17,166	2,544	1,312	21,022

表 4. 貸出冊数 (冊)

学生・院生	教職員	その他	合計
32,060 (学生・院生 1人当: 12.0)	8,749	5,126	45,935

表 5. 貸出冊数の内訳 (冊)

	学生・院生	教職員	その他	合計	前年比
和書	28,970	6,635	4,983	40,588	90.5%
洋書	2,364	1,342	143	3,849	85.0%
雑誌	726	772	0	1,498	93.1%
合計	32,060	8,749	5,126	45,935	90.1%

表 6. 第4閲覧室・グループ学習室のパソコン利用 (ログイン回数)

第4閲覧室	グループ学習室	合計	1日平均	1台平均
27,611	8,351	35,962	107.7	705.1

表 7. 相互協力 (件)

文献複写		現物貸借	
複写依頼	複写受付	貸借依頼	貸借受付
728	1,740	215	369

表 8. 蔵書冊数 (冊)

和書	洋書	図書合計	視聴覚	総合計
458,810	130,214	589,024	25,987	615,011

2015年度受入冊数：7,476冊 (図書・製本雑誌・視聴覚資料)

### 2015 (平成 27) 年度 DVD (Blu-ray 含む) 視聴ランキング [Best 5]

- 第1位 神さまの言うとおり (三池崇史 監督) [講談社 (2014)]
- 第2位 土竜の唄：潜入捜査官 REIJI (三池崇史 監督) [フジテレビジョン (2014)]
- 第3位 闇金ウシジマくん Part2 (山口雅俊 監督・脚本・企画) [小学館 (2014)]
- 第4位 サイレントヒル：リベレーション (マイケル・J・バセット 監督・脚本) [ハピネット (2012)]
- 第5位 モンスターズ (中田秀夫 監督) [バップ (2014)]



新年度がスタートしました。皆さん、思い思いに目標をもって過ごされることでしょう。特に新入生の皆さん、大きな期待に胸を膨らませてご入学されたことと思います。中にはちょっと不安を感じている方もいるかもしれません。そんな方々に向けて図書館では、新入生歓迎企画として、大学生活や勉強法・レポート作成、及び就活準備など、お節介ながら、今後、きっと役に立つであろう本の展示を行っています。

年間を通じては、以下のような企画展示を予定しています。学生の皆さんが、充実した学生生活を過ごす上で、少しでもお役に立てればと思っています。

### <2016（平成28）年度の企画展示予定>

4月 ~ 5月中旬	新入生歓迎の本（大学生活・勉強法・レポート作成・就活準備）
5月中旬~ 7月初旬	2016年本屋大賞
7月初旬~ 9月下旬	ホラー・心霊現象・オカルト特集
9月下旬~ 11月中旬	新書特集 ・新書大賞受賞作・大学で課題になりそうな本 など
11月中旬~ 12月下旬	食に関する本特集 ・美味しそうな食べ物が出てくる小説・エッセイ ・食べ物 の歴史、調理方法 など
12月下旬~ 2月中旬	図書館大賞
2月中旬~ 3月	一度も借りられたことがない本特集

さて、多数の方々のご協力により『書林』第89号を発行することができました。4月の発行ということもあり、新入生歓迎の意を込めた内容でまとめています。今回お届けする『書林』第89号の主な内容は、次のとおりです。ご感想・ご意見などがありましたら、図書館までお寄せください。

#### ■図書館長による巻頭言

学園創立70周年を迎えるにあたり、「図書館のこれまでとこれから」をテーマに、図書館長に巻頭言を飾っていただきました。

#### ■新入生に贈るこの1冊

本学の学生3名と教職員3名の方々から、娯楽的なものや大学生活を送る上で非常に参考となる本などをご推薦いただきました。気になる著作については、是非、読んでみてください。

#### ■自著紹介

人文学部教員2名・経営学部教員1名の各々が執筆された図書を紹介しています。授業で使用されていることもあり、学ぶ上において実用的で解りやすい内容となっています。

#### ■Welcome to SGU Library

図書館を積極的に利用されている人文学部2年生へのインタビューです。本学への入学を希望された理由や図書館利用における感想などが述べられています。

#### 札幌学院大学図書館報「書林」第89号について

\*掲載記事の著作権は札幌学院大学図書館にあります。

\*記事・写真の無断転載は禁止します。

\*紹介図書の写真については、各出版社から掲載許諾を頂いております。

許諾を下さいました各出版社の皆様には心からお礼申し上げます。